

長野オリンピック教育プログラムの成果と課題に関する研究  
～2008年の交流内容に着目して～

○北島 信哉 東洋大学

キーワード：オリンピック、教育、一校一国運動

長野五輪開催時に実施された一校一国運動という教育プログラムは、その後のオリンピック開催都市に受け継がれ、2020年東京五輪、パラリンピックにおいても実施が予定されている。この教育プログラムの実施にあたり、現在も継続している長野での取り組みの成果・課題等の検証は重要であるが、この取り組みに関する研究の蓄積は十分とは言い難い。そこで、本研究では1998年長野オリンピック教育プログラム（一校一国運動）に現在まで関与している、前Kクラブ会長へ半構造インタビュー調査、一校一国運動に関する資料集により、長野オリンピック教育プログラムの成果と課題を明らかにすることを目的とする。本研究から過去開催されたオリンピックでの教育プログラムの実情が明らかになることで、今後開催されるスポーツイベントに対しても有益な示唆を与えられる可能性がある。本研究の結果、一校一国運動の成果は、長野五輪以降のオリンピックにおいても教育プログラムとして実施され長野五輪の無形レガシーが引き継がれた事、本プログラムを通じて海外に目を向け学習が進められた事が挙げられた。課題として、継続の困難さ、交流国との関係構築等が挙げられた。

観光レジャーと食体験の満足度に関する調査分析

観光レジャー 食と観光 インバウンド

○羅依\*<sup>1</sup> 荒川雅志\*<sup>1</sup> (\*<sup>1</sup>琉球大学大学院観光科学研究科)

キーワード：食 満足度 旅行体験 沖縄観光

【背景】旅行体験は、食、宿泊、アクセス、買い物、観光、レジャー活動に分けられるのが一般的であるなか、食に関する支出は旅行消費の約1/6を占めるとの統計がある。近年の観光者は旅先ならではの体験や旅先でしか味わえない食を求める傾向があり、観光満足度における食はきわめて重要である。近年、中華圏（中国大陸、香港、台湾）の訪日外国人の増加が著しいが、その来訪動機には日本食を楽しむことが上位に挙げられている。一方で食に対する満足度について一定規模のサンプリングを背景に検討した研究はほとんどみられない。【目的】中華圏旅行者の沖縄滞在中の飲食店に対する満足度と旅行全体に対する満足度との関係を検証する。【方法】那覇国際空港ターミナルにおいて搭乗を待つ中華圏旅行者（台湾人、中国人（本土、香港））にアンケート協力回答を依頼した。調査は平成26年7月～8月の間に実施した。調査表は飲食店に対する満足度（45項目）、個人情報（8項目）で構成した。【結果】【結論】中華圏旅行者500名に配布回収を完了した。現在解析中のため学会当日に詳細を報告する。